

水源の里だより

みらいづくり隊
なう!

＜水源の里振興室から＞

新たな交流やつながりを生む場として、市内外から注目を集める「里おこしイベント 伊吹の天窓」
奥伊吹の小さな集落から始まったこの取り組みは、今年、市内外から800人を集めるイベントへと成長し、関係者や

地域に様々な影響をもたらしているようです。
今回はそこに込められた思いについて、実行委員会の中心メンバーであるみらいづくり隊員の舟橋さんと早川さんにお話を伺いました。

まいばら協働提案事業

「伊吹の天窓」ヒストリー

平成23年4月

・舟橋さんが甲津原に移住。引越作業の最中、この場所でイベントをやりたいとの思いが募る。早川さんと切り絵のライトアップを企画。

平成23年7月23日

・「伊吹の天窓」を甲津原の行徳寺にて開催。暗闇の中、突如、お寺の障子に映し出された切り絵に、



お寺の障子に映し出された切り絵のライトアップの様子。

会場を埋め尽くしていた参加者からは歓声があがりました。

平成23年後半～平成24年4月
・早川さんの切り絵展 東京・京都など広範囲で開催
・伊吹の天窓実行委員会設立



みらいづくり隊員（第1期）
ふなはし 舟橋 麻里さん

色んな人の「伊吹の天窓」 になったらしいな

実行委員会のメンバーとして、周囲から寄せられる期待に対し責任やプレッシャーを感じながらも、「伊吹の天窓」は今後、形は変わるかもしれないが続けていきたいと話す舟橋さん。

「この奥伊吹の地で、私たちが体験し、そこで生まれた想いを他の人たちに伝え、共有していきたいと思っ

ています。「伊吹の天窓」は、その想いを発信していく場として開催しています。

ここから私たちのような若者の活動が広がり、色んな人の「伊吹の天窓」になったらしいなと思います。そして、この地域に集まる人たちの活気が、地元の皆さんを元気にするような、そんなイベントにしたいです」

「伊吹の天窓」は、「音」「光」「食」「モノ」「体」を通じてメッセージを発信しています。昨年の第1回の開催以降、様々な反響があるようで、早川さん制作の「切り絵」は、「伊吹

の天窓」をきっかけとして大きくクローズアップされています。

それぞれが 発信できる場として

舟橋さんは現時点において、里おこしイベントである「伊吹の天窓」での商業的な成功は考えていないそうです。

「わたし自身も含めて、この取り組みに携わった人それぞれが発信できる場として、自分たちの未来につなげていければと思います」

そんな舟橋さんですが、最近はい前から興味のあった薬膳料理の勉強を始めているとのこと。今後は、「伊吹の天窓」の活動とバランスをとりながら、「食」や「健康」に関連する仕事を生業にしようと考えているようです。また、農作物の栽培にも興味があるとのこと、「やりたいことが多くて優先順位が難しい」とお話しされていました。

「伊吹の天窓」、そして舟橋さんの今後について、温かく見守っていきたいと思います。

平成24年5月

・伊吹の天窓公式WEBサイトを開設

平成24年7月14日

・「伊吹の天窓2012」開催。切り絵の演出は複数のテントを使ったスケールの大きいものに。また、「雪ふみ行進」、「草刈りダンス」など、地域に根付いた試みを披露。



たにイー美れられ、今年披露された早川鉄兵さんによる切り絵のアップ。ト部的な幻想的な美しさに圧倒されました。

東草野中学校生徒が披露した「草刈りダンス」。



こちらにも初披露だった「雪ふみ行進」。こちらは、来年に向けて様々な場所で撮影中。ダンスに参加希望の方は水源の里振興室まで。



平成24年8月

・まいばら協働提案事業の一つに採択される。

・「伊吹の天窓」WEBサイトリニューアル。今後の情報発信にご期待ください。http://bukinotenmado.com/

みらいづくり隊員（第1期） 早川 鉄兵さん

この地域に 目を向けて欲しい

昨年とは異なるイベントの規模、そして初の実行委員会体制による運営は、昨年のノウハウが通じずほとんど初めての開催に近い状態だったようで、イベント直前は徹夜だったと語ってくれた早川さん。日常の仕事と並行しながら、このような大規模なイベントをやっていくには、少ない人員だったのかもしれない。そんな状況にも関わらず、昨年は会場スペースの関係で、参加希望の方

についても一部お断りしていた実情もあったことから、「せっかくこの地域に目を向けてくれた人を断りたくない。（大変だからと言って）規模を縮小したくない」と熱い思いを語っていたきました。「自己満足のためではなく、この地域に目を向けて欲しい」その想いで取り組んできた早川さんらしい言葉です。

伊吹の天窓実行委員会は数人のみらいづくり隊員のほか、地元在住や地元出身の同世代の若者が構成されています。地域を愛する若者の熱い思いと、それを応援する地域の方々、関係者の力によって、この取り組みは支えられています。

実行委員会では、来年度に向けて

取り組みをサポートしてくれる新たな仲間も求めてきたいとのこと。

興味をお持ちの方は、今後の「伊吹の天窓」の動きにご注目ください。

米原だからこそ 見つけてもらえた

運営側だけでなくアーティストとしても「伊吹の天窓」に参加している早川さん。「切り絵ライトアップ」では大勢の方を魅了しました。

早川さんが、ここ米原で切り絵の取り組みを始めたのは、昨年の移住前、みらいづくり隊員になる予定の仲間と集まった喫茶店で、小さな切り絵を作って舟橋さんに渡したことがきっかけ。その小さなきっかけが「伊吹の天窓」でつながったことで、今では切り絵作家として多くの依頼を受けているようで、新作の制作がしばらくできない程に多忙とのこと。

「米原に来ていたからこそ、そういった取り組みにしっかりと着目してもらえたと思います。ただ、今はそれなりに仕事をもらえています。これがこのまま続くとは思っていません」と謙虚な姿勢を持ち、来年は切り絵の創作や、営業もやっていきたいという早川さん。

地域から力強くメッセージを送り続けていくその姿を、今後も応援していきたいと思っています。



早川さんの切り絵デザインが入った七分袖Tシャツ。市内の一部店舗や今後の切り絵展示会などで販売される予定です。